

はつとん weekly(校長室より①)

初芝富田林の教育のこれから ～ DX ハイスクール & 対話型論証 ～

2024 年度が始まりました。今年度も週に 1 回のペースではつとん weekly の記事を、教科の活動を中心にあげていきたいと思ひます。はつとんの様子を少しでも知っていただければと思ひます。

さて、私は校長 4 年目に入ります。この 3 年間は、教育内容の充実を力を注いでまいりました。初富は、もともと高い教育力を持った学校です。『伸ばす初富！』という評価は自己評価ではなく地域の中学校の先生方に言っただけの大変うれしい言葉です

だからこそ、教育内容を更に充実させ、他では体感することのできないものを、この 3 年間懸命につくってまいりました。

力のつく個別最適を大切にした日々の学び、コースごとの特色ある学び、長期休暇での国際教育の取り組み、さまざまな高大連携企画、医学科志望の支えとなるプロジェクト、国のリーダーの話を直接聴くことのできる新春特別講演会など、どれも質において他校にはないものです。もちろん体育大会・文化祭・今年初めての海外を含めた選択制の修学旅行・耐寒ウォーク・クラブ活動・生徒会活動など、行事や課外活動も活発で初富らしいものに発展してきています。

そんな初富は 40 年を迎えました。今年の 11 月 1 日に 40 周年の式典を行います。一つの区切りであるとともに新しいスタートです。そして、この新しいスタートを切る初富のこれからを支えていく教育内容として、現在取り組んでいることを 2 つご紹介したいと思ひます。

1 つ目は、文科省の事業である DX ハイスクールに指定されました。以前からあるスーパーサイエンスハイスクール(SSH)のような科学技術人材育成のモデル事業ではなく、これからのデータサイエンス・AI の時代にあった教育内容や環境整備を目指した事業です。今年度中に、教育内容の DX の視点からの見直しを行い、環境とともに整備を行います。将来の教育の場の在り方を見据え、充実した取り組みを行っていきたく思ひています。

2 つ目は、デジタルや AI 時代だからこそ必要とされる力に目を向け、京都大学の松下佳代先生を教育顧問にお迎えして、対話型論証モデルの授業方法の研究を行っています。対話型論証モデルとは、「ある問題に対して、他者と対話しながら、根拠を持って主張を組み立て、結論を導く活動」を授業方法に落とし込んだものです。受験に必要な力はもちろん、大学の研究の場でも、社会に出てからの仕事の場でも活かせる学びの根本の部分とつながっているものと思ひています。

これら 2 つの取り組みによって、はつとんは教育の新しいステージに立つことになると思ひます。そして同時に、はつとんの教育目標である、『本質を問い、本質を見極める力を養う』の達成につながることを確信しています。

はつとんの伝統ある教育力と次世代の教育を見据えた取り組みに、是非ともご期待いただければと思ひます。